

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 4月 1日

事業所名 多機能型事業所シンフォニー

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		天井の高さを活かし、飾りの立体配置(見上げる飾りなど)を心がけている。	スペースを活かした活動や心地よさを引き続き大事にしていきたい。
	2 職員の配置数は適切である	○		4月より正看護師の2名配置を予定。	より安心して医療ケアケースに対応できるようにしていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ひさびさの児童発達支援だったので、あらためて幼児目線で検討してみた。	洗面所に簡易手すりがあればいいという意見が挙がった。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃等で清潔さは常に心がけている。また空間も余裕をもって確保できている。	さらに幼児目線でも確認して徹底していきたい。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		振り返りや話し合いなどでできる限り時間を確保している。	やっちはいるが活かされているかは微妙だという意見もあった。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		施設として昨年の秋祭りの際も保護者向けアンケートを実施した。	アンケートや評価表も活用しているが、送迎時や連絡帳などでも随時意向確認に努めている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		今年はシンフォニーのホームページでも公開します。SNSにも力入れてます。	スエナガのホームページにもありますが、シンフォニーのホームページにも公開することでより目につきやすくなります。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		社外、総合コーディネーターからのアドバイスは積極的に受け入れている。	正式な第三者評価は受け入れていないが、今後の福祉政策の流れに合わせ導入を検討します。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月1回(12回シリーズ)の施設内研修等を実施。	ただし児童発達支援向けかどうかという点等でさらにという感覚があるのか、意見が割れた。機会はあるということでは「はい」で回答。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		頻繁にコミュニケーションをとることでニーズや課題の把握に努めている。	児童発達支援でも客観的な分析になるよう日々の振り返りや話し合いを重視している。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		聞き取り時の専用シートを活用している。	アセスメント時も前回の計画書やアセスメント結果を参照しながら進めている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		できる限り適切に沿う努力はしている。	ただし今回のケースは始まったばかりでまだ適切に行えているか等の評価はできていない。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		できる限り沿う努力はしている。	現場からはできている時とできていない時があるという正直な意見もある。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		立案に対して全員で話し合いを実施。	プログラムの案に関してはだれにもでも発言権があり、アイデアを出し合っている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		ひさびさの児童発達支援なので新鮮な気持ちで取り組んでいる。	同じことの繰り返しにならないよう気をつけていきたい。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		参加児の個性に配慮、また放デイとの接点にも工夫はしている。	児童発達支援は現在1名なので集団活動は実施できていない。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日の振り返りといっしょに行うことで比較や積み重ねができるようしている。	昨日より今日がよりよくなるよう実感が持ちやすい。支援内容も話し合いでより深められる。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		記録をもとに翌日に時間を十分にとっている。	直後のフレッシュさは失われるが話し合う時間の確保を重視している。直後は記録もきちんと行ことを重視。もちろん必要に応じて直後に話し合いをすることもある。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録をもとに話し合いをすることが習慣化している。	話し合いの中で記録の記述の疑問点等が検証され、改善につなげていると思う。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		児発管を中心に行っているが、日常の話し合いの情報を重視している。	児発管も支援の実際を見聞きし、話し合いの中心となることで必要性の判断の助けになっている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が中心だが、必要に応じて直接処遇に当たっている職員が参加することも。	現在のケースではまだ会議がないが、必要に応じて看護師などの参加も検討。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○	児発管が研修で面識があり電話等ではやり取りしている。	より連携するためにより関係を深めていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		ケースの進み具合に合わせて連携していく方針です。	研修などを通して外部とのつながりをより深め、より連携を深めていきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		主治医との連絡体制だけでなく保護者との連携を特に重視している。	利用開始時だけでなく保護者とは常に緊密にやり取りを行っている。さらに医療的なことは看護師が直接やり取りするなど工夫している。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ケースの進み具合に合わせて進めていく方針です。	特に乳児から幼児の移行は大事にしたいです。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ケースの進み具合に合わせて進めていく方針です。	また幼児から児童への移行も同様に大事にしたいです。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		電話等ではやり取りしています。	研修までは実施できていないので今後要検討です。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		コロナ後の今からの課題と思います。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		コロナ後の今からの課題と思います。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		コミュニケーションは常日頃から心がけています。	連絡帳、配布物、電話、Line(SNS)と様々な手段でコミュニケーションをとっています。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者とともに育てている意識です。	専門の見地から助言や提案は行っていますが、ペアレント・トレーニング的の手法の支援はなじまない気がします。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		主に利用開始時に行っています。	わかりやすく、必要な説明を行っているつもりですが、わからないことはいつでもお尋ねください。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		児発管を中心に行っております。	その内容を直接処遇する職員に落とし込むのも大事かと思えます。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		求めに応じて適切な職員が対応しています。	専門職に限らず、多様な年齢層の職員がいるのでいろいろな視点で対応できるかと思えます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今後の課題とっております。	令和5年に保護者会(総会・説明報告会)を検討しています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		体制はできています。	苦情だけでなく、日常的なちょっとした不満等でも解決できるよう努力しています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		連絡帳に加え、配布物にてお知らせはしています。	会報等は現在出していませんが、配布物に加えて連絡やり取りの中でも伝えていきます。あとインスタグラムにも力入れてます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		十分注意しています。	注意漏れは随時指摘をお願いします。即対応します。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		配慮しているつもりです。	よりよくなるよう工夫していきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		上記にもありますが秋祭りを開催しました。	コロナの影響でなかなかできませんでしたが、昨年ようやく実施できました。今年も秋祭り開催予定です。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		まずは職員への周知を徹底します。	保護者向けには上記保護者会などで機会をつくっていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災訓練等行っています。	訓練、研修等もより充実させていきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		看護師を中心に行っています。	連絡帳等を通じ報告等のやり取りをしています。録画動画でも様子を確認しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		指示書はいただいています。	他の医療的ケアの場合も医師の指示書や、保護者からの手順書をいただくことがあります。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例集あります。	事例集の分析も行い職員に周知しました。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		日常的に気をつけています。	以前研修を実施しましたが定期的に行えるよう計画していきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		個人的な判断では行いません。必要な時は保護者や施設長も交えて話し合います。	通常よりケガなどにも配慮してケアを行っています。ケガ防止でやむを得ないときは必ず相談いたします。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。